

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.117

< 目次 >

【報告】

- ★ 平成28年度第1回幹事会..... 1
- ★ 平成28年総会・懇親会..... 2
- ★ NPO環境研究室 3

【リレーエッセイ】

- ★ カラカネトンボが棲む水生植物豊かな水辺..... 4

【報告】

平成 28 年度第 1 回幹事会 開催報告

去る平成 28 年 5 月 15 日（日）15 時から、福島工業高等専門学校 専攻科第 1 講義室において、平成 28 年度第 1 回幹事会が開催されました。当日は、役員および事務局員 16 名が出席しました。

佐藤事務局次長の進行で開会し、諸橋会長の挨拶の後、大方副会長の議事進行により、定期総会を前に平成 27 年度事業ならびに会計決算報告、平成 28 年度事業案ならびに予算案の審議が行われ、出席者からご意見をいただきました。また、今年は総会にて役員の改選が行われることになっており、それに関する審議も行われました。

【報告】

平成 28 年度年次総会・懇親会 実施報告

去る平成 28 年 5 月 29 日（日）14 時から、いわき市文化センター 中会議室(1)において、平成 28 年度年次総会が開催されました。当日の出席者は 25 名でした。

事務局の野木氏の進行で開会し、諸橋会長の挨拶の後、永井幹事の議事進行により、平成

27年度事業ならびに会計決算報告が事務局からなされ、平成28年度事業案ならびに予算案の審議が行われ、承認されました。平成27年度の事業においては、例年実施している「子供環境研究発表会」、「発表会」、「いわき子ども環境賞コンクール」などの事業のほか、実施形態を改めて4回実施した「環境講座」などについて報告がなされました。平成28年度の事業としては、間近に迫っている会誌「EQUAL」30号発行や会の創立30周年を見据えた活動を実施することが確認されました。

今回の総会では役員改選も行われ、現会長の諸橋健一氏をはじめ現職の役員の再任が認められました。今期の役員および事務局体制の詳細につきましては、総会資料をご参照ください。

総会に続いて、15時から総会会場の隣の中会議室(2)において「懇親会」が開催されました。これまでの当会の活動を振り返り、これからの会の運営に役立てられるように、会員の皆様から日頃考えていることや活動されていることなどを中心に情報交換を行う機会を設けることを目的として開かれたものです。総会から引き続き出席された会員の方々を含め、出席者数は21名となりました。

懇親会では、原田副会長の進行のもと、昨年度に新規に会員になられた方や維持会員の企業から参加された方など、自己紹介を兼ねて日頃の取り組みやご専門のことをお話していただきました。また、今後の会の運営についても貴重なご意見も多数いただきました。今年度から採り入れられるものは積極的に取り入れ、会の活動の活性化に繋がりたいと思います。

お忙しい中、定期総会ならびに懇親会にご出席いただきました会員の皆様に御礼申し上げます。



上記写真は平成28年度総会の様子

◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成28年5月1日～6月30日)

平成28年度の総会が開催されました

平成28年度の通常総会は、6月10日（金）18:30～福島高専専攻科棟にて開催され、会員15名の参加（登録正会員数18名）の下、平川英人理事の司会で進められました。議長に引地宏理事を選出。事務局より、平成26年度事業報告・決算報告・会計監査報告、続いて平成28年度の事業計画案及び予算案について説明・提案がなされ、質疑応答の後、原案通り認められました。

平成27年度の事業内容を紹介しますと、

【1】地域環境についての調査研究および政策提言事業

- 1) 「いわき市内河川の水生生物の生息状況等の調査～鮫川流域編」業務
「平成27年度環境まちづくり担い手育成支援事業」に採択され鮫川水系7箇所、6月から11月の間水生生物及び水質・流況調査を実施し、報告書を提出しました。
- 2) 自然エネルギー学習支援に係る事業（パルスシステム連合会からの助成金活用）
「いわき自然エネルギー研究会」として事業を展開した。既存のいわき市内3施設の充実・維持管理・活用をして、広報・学習教材の充実を図りました。
- 3) 研修会等への参加
11月29日、当会員を含めた24名が参加して、栃木県那須町の「非電化工房」及び「那須野が原ウォーターパーク」を視察しました。28年1月31日にNPO法人いわきの森に親しむ会との共催事業で講演会「楽しい非電化」を開催しました。

【2】地域環境についての教育事業

- 1) 自然エネルギーに関する学習支援 ～ 平4小6年生を対象に、10月6日、10月15日、11月10日の3回学習支援を行ないました。
- 2) 小学生対象の夏休み自由研究のための支援講座の開催
テーマ：「温度と熱」をテーマに7月26日フラワーセンターで講座を開催しました。

【3】地域環境を改善するための諸活動事業

- 1) 農村水環境学習支援（下小川関場地区農地・水環境保全団体）（7月18日）
- 2) 「第4回こどもあい♥ネットフェア」への参加（12月19日）
- 3) 関連団体との連携事業 ～ ①いわき地域環境科学会との共催・連携、②「いわき鳴き砂を守る会」の諸行事への参加・支援（四倉海岸でのフェス等へ参加）、③夏井川流域の会の活動支援

【4】その他

- 1) 広報活動 ①いわき地域環境科学会の会報「ふいーるど」（隔月発行）への投稿、
②ホームページの更新
- 2) いわき地域環境科学会関連の会議等への出席

【リレーエッセイ】



カラカネトンボ棲む水生植物豊かな水辺

鳥海 陽太郎 (会員)

明るく開放的な草原の中に咲くタニウツギの美しいピンクの花や、レンゲツツジの鮮やかなオレンジ色をした満開の花々がアゲハチョウを誘い、ヤブデマリの純白の花や、山裾の林に咲くトチノキの白い大きな花々も虫たちを呼んでいる。草木の茂みではウグイスが鳴き、上空をホトトギスがキョッキョッ、キョッキョッキョとさえずりながら飛び回る。ウグイスは、頭上を飛ぶホトトギスに自身の巣が托卵のターゲットにされるかもしれないということを知らない。アカゲラなのかアオゲラなのか遠くで打ち鳴らす軽快なドラミングの音が山あいこだまし、耳を澄ますとツツドリの鳴き声も。近くの林から聞こえてくるエゾハルゼミの輪唱は少し騒がしいけれど、待ちに待った初夏の訪れを告げてくれているようでありたい気持ちになれる。ここはさまざまな生きものたちの息づく高原だ。

水辺へと進む草原で出迎えてくれたのは、小さなサナエトンボ「コサナエ」。池には挺水植物や浮葉植物が繁茂している。これらの水生植物は、水辺で生活する動物たちに酸素を供給するばかりでなく、繁殖場所も提供しているのだろう。水面にほどよく葉を広げたヒツジグサも、トンボの格好のすみかになっている。開水面に反射して映し出された晴天の青空がキラキラと輝き、まばゆい光を放つ水面下では魚の影が見え隠れしている。池の中ほどではカルガモのつがいが泳ぎ、カイツブリの鳴き声も聞こえてくる。水鳥たちも繁殖期を迎えているようだ。花期を終えたミズバショウが葉を伸ばし、黄色い可憐なサワオグルマの花咲く水際には、産卵のために集まったモリアオガエルの重低音の鳴き声が響く。

ヨシの葉にとまり、仲間が通りかかると突然飛び立ち、追跡し、活発に飛び回り、また戻って来る。水辺でこうした縄張り占有の飛翔を繰り返しているのは「ヨツボシトンボ」。シオカラトンボほどの大きさだけれど、ずんぐりとした体型で少し太め。挺水植物の繁茂する池沼にしか生息できないトンボで、近年の減少化傾向は著しい。雌にめぐり会えた雄が連れ立って飛ぶシーンや、雌が水面で産卵を開始すると雄がそのすぐ近くでホバリングしながら警護するシーンが観察されるなど、ヨツボシトンボはこの池を繁殖地として生活しているようだ。水辺で観察を続けていると、目の前に全身を金緑色に輝かせた美しいトンボが飛んで来た。ヨツボシトンボよりもひとまわり小さく、体型はスリムで動作は非常に敏捷。水面上のあちらこちらを忙しく飛び回り、どこにも全くとまらない。ホバリング中のところを撮影した。北方系のトンボ「カラカネトンボ」だった。隣県の栃木県ではレッドデータブックの категорияで絶滅危惧Ⅱ類にランクされている。山地の樹林に囲まれた池沼を生息域とし、環境に対してたいへんデリケートなトンボだ。滅多にお目にかかれない希少なトンボに出会ったことに思わず心も弾む。水面に葉を広げたオヒルムシロには、寒冷地に生息するイトト

ンボ「エゾイトトンボ」の姿があった。黒と瑠璃色のツートンカラーの小さなトンボ。体に瑠璃色の斑紋が配色されているのは、寒地系のトンボに共通の美しさなのかもしれない。

野鳥の観察をする人、風景写真の撮影をする人、それぞれの目的でこの水辺を訪れている人はきっと多い。けれど、いったいどれほどの人が水辺で生きる小さなトンボの存在に気づいているだろう。

さて、この山あい水生植物豊かな池の所在地は、残念ながらいわきではなく福島県耶麻郡北塩原村の桧原地区。裏磐梯高原の西部にあたる。訪れたのは今年 2016 年 6 月のことだった。裏磐梯高原は、いつ訪れてもさまざまな動植物に出会えて、そのたびに新しい発見のあるところ。こんな動植物の豊かなサンクチュアリとも呼べるフィールドがいわきにもどこかにないものか探している。40 年前の平藤間の藤間沼や平旧城跡の丹後沢は、まさにトンボの楽園だった。夏井川河口周辺の汽水域などには、絶滅危惧種のヒヌマイトトンボが生息していたかもしれない。生息地が発見されぬまま絶滅してしまったのか。あの頃、動植物の生息状況を正しく認識して、保護対策をとっていたなら、いわきの水辺はもっと動植物であふれる美しいところになっていたに違いない。

(リレーエッセイに関わる写真集です)

1) 山あい水生植物豊かな池



2) 水生植物豊かな池に生息するヨツボシトンボ



3) 金緑色の輝き放つカラカネトンボ



4) 美しい瑠璃色の寒地系種エゾイトトンボ



2016. 7.1. No.117
発行：いわき地域環境科学会
福島工業高等専門学校
地域環境テクノセンター内
〒970-8034
いわき市平上荒川字長尾30
TEL. 0246 (46) 0837
FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org